

【学年】 1年	【教科・単元名】 国語科 『くじらぐも』
<p>【実践内容】</p> <p>ねらい 登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ</p> <p>『くじらぐも』の音読発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かぎかっこ」で書かれているところを、誰のせりふか考える 子どもたちは赤、先生は黒、くじらぐもは青の線を引く。 ・子どもたち、先生、くじらぐも、ナレーター役を決める。 ナレーター役のオーディションを行う。 ・動作化を取り入れながら、音読の練習をする。 体操する場面、くじらぐもに呼びかける場面、ジャンプする場面、飛び乗る場面、お別れする場面 ・音読発表会を行う。 低学年のふれあい集会 	
<p>【反省】</p> <p>1年生の子どもたちは、『くじらぐも』の作品が大好きである。各場面での子どもたちの様子を想像し、せりふを付け足したり、くじらぐもに手紙を書いたりしながら、各場面の読み取りをしたあと、子どもたちに『くじらぐも』の音読発表会をしようと呼びかけた。ちょうどその日は、低学年のふれあい集会があって、2年生の群読の発表で刺激を受けており、来週は1年生の番なので、そこで発表しようと言えた。</p> <p>役決めでは、ナレーターは、大きな声ですらすら読めなければ物語が進まないのでは、オーディションを行って決めることにした。練習期間が限られていることから、役が決まるとすぐに動作化を取り入れた練習を始めた。体操の場面など、動きがそろわなければいけない場面は、こちらから動きの指示を出したが、それ以外の場面は、子どもたちが自分たちで考えて動いていた。特に、「天までとどけ、一、二、三」と、ジャンプする場面は、1回目、2回目、3回目でジャンプの高さを変えたり、3回目だけしゃがんでからジャンプしたりと、工夫していた。くじらぐもに飛び乗る場面では、くじらぐも役の子が持つ大きなくじらに、子ども役の子が、絵を貼りにいくことにした。絵は、自分たちが空を飛んでいる楽しそうなポーズを考えて、画用紙に描いて切り取り、裏に両面テープを貼って作った。貼りに動く際、どうしてもしゃべってうるさくなったり、押し合いになりがちなので、しゃべらず静かに貼ること、絶対に走ったり押ししたりしないことを約束して、何度も練習をした。練習期間は短かったが、発表会の日がはっきりしていることがよい刺激になって、みんな、張り切って練習し、自信を持って発表会の日を迎えられるようになった。ただ、発表会本番は、気分が高まってか、絵をくじらに貼りにいく場面で押し合ってしまった、くじら役の子が一人、椅子から落ちてしまった。皆、そのことが失敗だと感じているようで、発表会を終えた後の満足感に、今ひとつ影を差してしまったのが残念だった。発表会の成功を大きな目標に工夫したり練習をがんばったりしてきたので、その発表会での成功がいかに大きな意味を持つかを実感した。</p>	